

**【市政懇談会 質疑応答】 音別コミュニティセンター**  
**(平成 25 年 8 月 20 日(火) 18:30)**

**【参加者 A】**

長期滞在について伺います。平成 24 年度に釧路市に来た長期滞在者は 180 人で、延べ滞在日数は 6,800 日でした。これを 7,000 日として、1 人が 1 日に 1 万 5 千円使うと約 1 億円の経済効果がある。長期滞在事業を行っているくしろ長期滞在ビジネス研究会では、将来展望をどう考えているのでしょうか。長期滞在事業はビジネスの話ですので、こうした取り組みはむしろ商工会議所に任せて、行政の方では長期滞在者のホームステイや、町内会を活用した受け入れ等を考えてもらえば、地域活性化につながると思います。

それと、事例としては 2 件しか見ていませんが、最近、中古住宅を取り壊しているのを見ました。構造的にはしっかりとしているのにどうして壊すのだらうと思いました。リフォームを行って利活用を考えれば、税金も得られるのではないかと思います。

**【市長】**

今後、長期滞在事業の取り組みをどう展開していくかは重要な視点だと思います。ビジネス研究会は民間主体の組織ですが、実態としては、市役所が研究会の事務局を担って取り組みを進めています。

ここ数年、長期滞在者が大きく増加し、それによって滞在施設（マンスリーマンション）の不足が課題となっていますが、今は多くの人に来てもらい、長期間滞在することで、商店等での消費活動が長く続き、地域に経済波及効果をもたらすという中で進めている状況です。

釧路市の場合、滞在施設は民間企業が取り扱っているもので、不足しているからと言って、すぐに増やせるかという点、なかなか難しい状況にあります。そのため、市としては、夏に限定されている滞在施設の利用を通年利用に展開していくことを目指しています。秋、冬の長期滞在に向けた具体的な取り組みとしては、今年 2 月から、冬の PR 素材として、釧路にスギ・ヒノキの花粉が無いことを生かし、花粉ゼロの快適空間をキャッチフレーズにした冬季長期滞在の PR を始めたところです。まだ成果は出ていませんが、夏の涼しい釧路と冬の快適空間で長期滞在者が増加した時には、民間企業による設備投資も進んでいくのではないかと期待しているところです。

あわせてもう一つが夏季の受験勉強の受け入れです。東京で勉強するよりも自然環境の恵まれた釧路でやった方が効率も良いのではないかと考え、関係先等にアプローチしています。まだ成果はありませんが、いろいろな分野に涼しい釧路の取り組みを幅広く PR していき、夏の涼しさを生かした取り組みを見出していければと考えています。

不動産会社を対象に行った市の調査では、市外在住者で市内に一軒家やマンションを購入された方が過去 4 年間で 15 件ありました。滞在をきっかけ

に購入されたと思いますが大変ありがたい話だと思っています。

### 【音別町行政センター長】

個人住宅で空き家になったものが取り壊されて更地になっています。

今年から利用者がなくなった職員住宅を民間企業に売却しています。釧路から音別に通勤している人もいるので、売却先の企業の方には、職員住宅をリフォームして賃貸物件として貸し出すと、そういった人たちが利用するのではないかと働きかけているところです。

### 【参加者B】

音別で災害があった場合、神社山や軍馬山に行く道が国道1路線しかないため、避難路を確保する上で道路を造ってほしい。

あわせて、神社山に行く道にある川西の橋幅が、車2台の交差でぎりぎりです。災害があった場合、音別では車が使われることを踏まえると、最低でも片側2車線の4車線は必要だと思う。一方、軍馬山に行く場合、大塚グループの工場北側に橋があるが、こちらも狭い橋なので、大きな橋にすると軍馬山にスムーズに登っていけないのではないかなと思う。

また、庶路・白糠間と音別・尺別間の道がないので、この間をつなぐ車道があれば、国道が通行止めになっても影響は少なくなると思う。

### 【市長】

音別地域の場合、津波が来た時には2,000人の方が避難する必要がありますが、避難者の収容能力としては3,000人強分あります。基本的に避難にあたっての市の方針は車を使用しないこととしていますが、音別の場合、車を使わなければ避難が難しいと思っています。そのため、皆さんが、どう避難するかが大事になっていきます。今後、地域で行う避難訓練の際には、日中働いている場合であればどうか等、具体的な避難方法を想像してもらいながら、その中に行政センターも入って、避難の対応策を構築していきたいと思っています。

もう1つの課題として、過去にもありましたが、津波警報等によって国道38号線が通行止めになると、音別が陸の孤島になってしまうことです。この課題は何とかしなくてはならないと思っていますので、国とも、こういった形を取っていくのが良いのか協議しているところであります。

### 【音別町行政センター長】

音別から尺別や直別に行く道道がありますが、一部舗装されていない砂利道があります。農道の利用については今すぐ利用化できるかどうか不透明な状況です。

### 【参加者C】

ただいまの市長のお話を聞きまして、相当な努力をされていることは十分わかりました。市長をはじめ職員の皆さんが、財政難の中、いかに釧路市全体を活性化することに対して頑張っておられることは理解できました。

音別地域でも年々人口や世帯数が減少しています。そうした状況を見ると、これから町が衰退していった後はどうなるのだろうか、あるいは限界集落になってしまうのか等と考えてしまいます。商店街も店が少なくなっていますので、これからの生活が困難になっていくと思っています。人口が毎年60人から70人程減っていることに伴って、消防団員の人数も減っています。今は30名足らずで10年前、15年前と比べると3分の1程度です。釧路地方にも大きな津波が来る津波シミュレーションが発表されていますが、万が一、そういった災害が起きた場合、若い人たちの力が大変有力になると思います。そのために、難しいとは思いますが、雇用の場を考えていただけないものでしょうか。よろしくお願ひします。

### 【市長】

雇用は経済に繋がっていきますし、経済は本当に重要なことです。私は1次産業、農業が北海道や音別地域において大変重要なものであると思っています。音別の歴史を知る中で、音別がこの地方の酪農発祥地だと伺いました。各地域の酪農家が音別に学べと、そうしたところから釧根の酪農がスタートしたという話を伺いました。コストが大変厳しい状況にあると思いますが、酪農家の方は大規模化等に取り組み、生産性を確保した中でしっかりと生乳生産を進められております。

私が思うに、食料はやはり北海道なのだろうと思います。例を挙げますと、コンビニエンスストア等で売られているパック容器に入ったポテトサラダは北海道の工場で作られています。本州の会社が北海道に来て、工場を建てて商品をつくっているのです。産地から製造工場までの移動でダメージを与えないようにすることで美味しいものが出来るということらしいのですが、こうした観点のもと、企業は産地に加工や保管を行う施設を造るのです。北海道で生産されたもので商品ができて、それが関東方面に送られて全国に展開していくという取り組みなのです。

そうした物の流れがあるということ踏まえた時に、私としては、音別地域はまずは足腰の強い酪農業だと思います。次に林業分野で何か出来ることはないかと考えています。あわせて、何か野菜はできないか。それをやるとなったら基盤整備をどうするか、国や道の支援は得られるのか等、そうしたことをいろいろ考えていく中で、取り組みを進めていきたいと思っています。これが音別地域で活性化を進めていく手法になっていくのではないかと、思っています。

## 【市長】

今日は皆様お疲れのところ、お付き合いいただきましてありがとうございます。ありがとうございました。

私もちょうど2期目がスタートしたところであります。1期目を振り返った中で、こういった市政懇談会等で音別を行き来していますが、実際にこの地域の活性化に向けたさまざまな政策をどうやっていくかをしっかり地域の中に入って話していく必要があると思っております。

推進する立場と反対する立場に自分を置いて、自分の中で議論していきながら、その上で、こういった形で進めていこう等、いろいろな話は出来ると思っております。

行政センターにはさまざまなご相談をいただいていると思いますが、アイデア等がありましたら、農業、林業等どの分野でも構いませんので、ご意見いただければ、議論する機会をつくっていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

本日は、長時間お時間をいただきまして、誠にありがとうございました。